

南ア月報
(2018年11月)

在南アフリカ日本国大使館

【内政】

- ギガバ内務大臣の辞任
- 内閣改造

【外政】

- ラマポーザ大統領の欧州歴訪
- ラマポーザ大統領のエチオピア訪問
- ラマポーザ大統領の G20 出席

【経済】

<経済指標>

- 消費者物価指数 (CPI)
- 為替レート
- 製造業
- 鉱業生産高
- 自動車販売台数

<出来事>

- ジュリアス・ベア銀行が南ア支店を開設
- 炭素税の導入
- フォード社、ポートエリザベス工場
- 南ア初の最低賃金法の成立
- アフリカ初、MBAコースの設置
- 電力供給問題

【広報・文化】

- 第 25 回日本映画祭
- スタジオジブリ作品上映会
- ジャパニーズポップカルチャーウィークエンド

【警備】

- クリスマスシーズンに向けた治安情勢
- 元ラグビー南ア代表選手の強盗被害

1 内政

●ギガバ内務大臣の辞任

13日、ラマポーザ大統領はギガバ大臣から提出された辞表を受理した。同大臣は、公共企業大臣時代における鉄道入札不正案件への関与の疑いに加え、グプタ家との関係及び寝室内で撮影された私的映像がSNSに流出したこと等により辞任圧力を受けていた。

●内閣改造

22日、ラマポーザ大統領は、モレワ環境大臣の逝去（9月）及びギガバ大臣の辞任（10月）によって空席となっていたポストを含め、内閣改造を発表した。クウェレ（Mr. Siyabonga Cwele）電気通信・郵便事業大臣が新内務大臣に任命され、モコンヤネ（Ms. Nomvula Mokonyane）広報大臣が新環境大臣に任命された。電気通信・郵便事業大臣ポストと広報大臣ポストが1つに統合され、ンダベニ＝アブラハムス（Ms. Stella Ndabeni=Abrahams）女史が広報大臣に任命された。

2 外政

●ラマポーザ大統領の欧州歴訪

14日、ラマポーザ大統領はフランスを訪問し、ストラスブールでタイヤーニ欧州議会議長と会談した。両首脳は、アフリカ・ヨーロッパ間の歴史的紐帯を確認した。ラマポーザ大統領はタイヤーニ議長がかかげる投資マーシャル・プランへの支持を表明した。また、同大統領は欧州議会で演説を行い、アフリカ EU 間の協力に関し言及した。

15日、ラマポーザ大統領はベルギーを訪問し、ブリュッセルで南ア EU サミットを共催した。同サミットでは、アフリカ EU 戦略的パートナーシップの進捗状況等に関し話し合われた。

16日、ラマポーザ大統領は、スイスを訪問し、ジュネーブで IOL（国際労働機関）の第四回「仕事の未来に関するグローバル・フォーラム」の共同議長を務めた。

●ラマポーザ大統領のエチオピア訪問

17日、ラマポーザ大統領はエチオピア訪問を訪問し、第11回 AU 臨時総会に出席した。総会では、主に AU の組織改革に関して議論され、ラマポーザ大統領は、それに対する南アの支持を再確認した。

●ラマポーザ大統領の G20 出席

29日、ラマポーザ大統領はアルゼンチンを訪問し、11月30日～12月1日にかけて行われた G20 サミットに出席した。G20 サミットに先立ち、ラマポーザ大統領は BRICS 諸国首脳との非公式会合を主催し、新興国の結束を確認した。

3 経済

<経済指標>

●消費者物価指数 (CPI)

10月の消費者物価指数 (C P I) は前月比 0.2%増の 5.1%。物価は前月から平均して 0.5%上昇した。

(南ア統計局、11月21日)

●為替レート

2018年11月30日付 (南ア準備銀行)

8.27185 円/ランド

13.7147 ランド/米ドル

15.6046 ランド/ユーロ

●製造業

9月の製造業生産高は、前年同月比 0.1%増。主なプラス要因は、食品・飲料製品で 2.7%増、鉄鋼、非鉄金属製品及び電気機器で 3.3%増、木材、木製品、製紙、出版及び印刷製品で 3.4%増。他方、主なマイナス要因は、石油、化学製品、ゴム及びプラスチック製品で 3.2%減、自動車及び輸送機器関連製品で 4.9%減、及びラジオ、テレビ、通信関連製品で 13.0%減。季節調整後生産高は、前年同月比 1.0%減。2018年第3四半期の季節調整後生産高は、製造業 10分野のうち7分野で製造増となり、全体として前期比 1.7%増となった。

(南ア統計局、11月8日)

●鉱業生産高

9月の鉱業生産高は、前年同月比 1.8%減となり、主なマイナス要因は、金 (19.0%減)、また、主なプラス要因は、PGMs (7.2%増)。季節調整後生産高では、前月比 1.2%増。2018年第3四半期の季節調整後生産高は、前期比 2.2%減。主なマイナス要因は、鉄鉱石 (13.0%減) 及び PGMs (7.4%減) での生産減。(南ア統計局、11月8日)

●自動車販売台数

南ア自動車工業協会 (NAAMS A) は、11月の国内の自動車販売台数は前年同月比 4.6%減の 47486 台と発表。10月の輸出台数は前年同月比 2.5%増の 34352 台。国内販売台数の内、78.4%はディーラー業界、16.3%はレンタカー業界が占めた。

<出来事>

● ジュリアス・ベア銀行が南ア支店を開設

7日、スイスの大手プライベートバンク、ジュリアス・ベア銀行が南ア初の支店を開設。同銀行は創業128年、4000億ドルの顧客資産を抱える。2週間前には、同じくスイスのロンバー・オディエ銀行も南アに初支店を開設している。ジュリアス・ベア銀行の担当者らは、南ア経済の現状が芳しくないことを承知しつつも、ラマポーザ大統領が経済回復に努めていることを指摘し、パイオニアとなるためには早い段階での進出が重要と述べた。同銀行は、長期的なコミットメントを行い、事業拡大を目指すとした。(Business day 電子版、11月8日)

● 炭素税の導入

20日、ムボウェニ財務大臣は2013年から議論されてきた炭素税法案を国民議会にて発表。2019年6月1日からの導入を目指す同法案は、第1フェーズ(2019年6月～2022年12月)と第2フェーズ(2023年～2030年)を設け、南ア国家開発計画及びパリ協定の目標を達成すべく、国を上げて温室効果ガスの削減に努めることを定めている。炭素税は段階的に引き上げを予定し、消費者・生産者側の双方から、中長期的に低炭素ビジネスや新たなビジネス体形の進出が期待されるとした。具体的な炭素税額は、初段階では、1トン当たり120ランドを予定しているが、その他にも諸条件にみあった炭素税が課される。(南ア財務省、11月21日)

● フォード社、ポートエリザベス工場

フォード社は、ポートエリザベスの工場での次世代ディーゼルエンジンの製造を開始。同エンジンは、2019年前半に披露される新モデルに導入される予定。ポートエリザベスの工場は1964年に稼働を開始し、現在まで340万ユニットのエンジンを製造してきた。同社は、2017年に30億ランドを投資し、年間12万個のエンジン生産が可能となっていたが、今回の次世代ディーゼルエンジン製造を開始すれば、年間の製造量は従来の2倍になる見込み。(Engineering News 電子版、11月20日)

● 南ア初の最低賃金法の成立

23日、ラマポーザ大統領は今年5月に議決されていた「最低賃金法(National Minimum Wage Act 2018)」に署名。同法は約3年間の議論の末、2019年1月1日から施行されることとな

った。同法案が定める最低賃金は、時給 20 ランド。ただし、農場労働者（時給 18 ランド）、家事使用人（時給 15 ランド）、公共プログラムの雇用者（時給 11 ランド）等は別途の最低賃金が定められている（各時給は括弧内のとおり）。また、最低賃金の支払いが困難な雇用主は、法案が定めるプロセスを経て、最低賃金の免除を受けることもできる。同法案と成立をもって設置された全国最低賃金委員会（National Minimum Wage Commission）は、最低賃金の見直し、調整、及び労働大臣への報告が義務づけられている。労働大臣は同委員会との協議を行い、施行後 2 年以内に最低賃金の見直しを行う。

当地報道各社は、最低賃金法が施行されれば、南アの就業者約 640 万人の賃金値上げにつながるとし、ラマポーザ大統領のマイルストーンであると報道。他方、時給 20 ランドは低賃金には変わりなく、貧困をさらに助長させるだけとの懸念の声もある。（Business day 電子版他、11 月 23 日）

● アフリカ初、MBA コースの設置

ダーバンに拠点を置く Toyota Wessels Institute for Manufacturing Studies は、プレトリア大学ビジネススクール（Gordon Institute of Business Science）と連携して、アフリカ初となる製造業に特化した MBA コースを 2019 年から開始することを発表。同コースでは、自動車産業に限定せず、製造業全般のマネジメントを学ぶ。定員は 40 名で、来年度の受講者は全員南アフリカ人出身。将来的には、4 人に 1 人はアフリカ諸外国から来ることが想定される。同施設では、他にも開発プログラム、資格コースや特別セミナーが提供される予定。（Engineering News、11 月 29 日）

● 電力供給問題

18 日、南ア国営電力公社（Eskom）は、揚水発電の貯水不足等の理由から計画停電を開始。28 日に公表した Eskom グループの中間報告書では、過去の汚職に加え、高コストなピーク時の発電や自治体による電力料金の支払い滞納、労使交渉による賃元引き上げや当局による電力料金規制等を要因とした財務の悪化、発電所の稼働効率や石炭の貯蓄量が低いことを要因とした電力供給不足などの課題に対して、短期・中長期的な対策を実施していく旨、記載されている。

4 広報・文化

● 第 25 回日本映画祭

当館及び国際交流基金による日本映画祭は、1994 年の初回以来毎年開催されており、本年度で 25 回目となる。今回は 2 日から 4 日までケープタウンにおいて、また、9 日～11 日ま

でヨハネスブルグにおいて、「人生、いろどり」、「サバイバルファミリー」、「クロユリ団地」及び「Genius Party Beyond」が上映された。本映画祭は当地において恒例の行事となっており、毎年のように訪れる日本映画ファンが多く存在する一方で、幅広い層の南アフリカ人が初めて来場するなど、当地における日本文化関心層の拡大及び浸透に大きく貢献している。

来場者からは「実に個性的であり印象的な映画ばかりだった」、「日本を訪れてみたくなった」、「来年も楽しみにしている」といった声が寄せられるなど、バラエティに富んだ作品は当地の人々の心をつかんだ様子だった。

●スタジオジブリ作品上映会

スタジオジブリ作品「千と千尋の神隠し」上映会を、1日にケープタウンにおいて、8日にヨハネスブルグにおいてそれぞれ実施した。2001年公開の名作アニメが上映されるという機会に当地アニメファンは沸き立ち、会場には映画に登場するキャラクターの着ぐるみを着用した者も現れた。終了後には別のスタジオジブリ作品の上映を求める声が多く上がった。

●ジャパニーズポップカルチャーウィークエンド

16日及び17日、プレトリア大学内劇場において当館及び同大学人文学部芸術学科による、「ジャパニーズポップカルチャーウィークエンド」と題した講演及び日本映画・NHKドキュメンタリー上映会を実施した。

16日はヴィッツ大学メディア学部専任講師コブス・ファン・スターデン氏による宮崎駿監及びスタジオジブリ作品を中心とした戦後日本ポップカルチャーに関する講演の後、同監督が最新の表現技法を探究する姿に密着取材したNHKワールドドキュメンタリー（「終わらない人 宮崎駿」）及び同監督作品「千と千尋の神隠し」を上映した。

17日には、古代ローマ時代の浴場と現代日本の風呂を描いた漫画原作の実写映画「テルマエ・ロマエ」及びダンスと青春をテーマとしたファンタジーアニメ映画「ポッピンQ」を上映した。「それぞれ特色ある作品に触れ、日本ポップカルチャーへの関心がとても高まった」といった意見が聴かれた。

5 警備

●クリスマスシーズンに向けた治安情勢

例年、クリスマスシーズンに向けて各種強盗、窃盗事件が増加する傾向にあり、南ア国家警察等治安機関は、ショッピングモールへの警察官の増強配置やパトロールカーによる市中の巡回強化などを行って警戒を強めている。しかしながら、11月中、住宅侵入窃盗やATMでのカードすり盗り等の邦人被害が報告されている。

クリスマスシーズンに向けて、外出時は日頃以上に周囲を警戒すると共に、自宅におい

ではホームセキュリティ（機械警備）の動作点検を行い、留守にする場合は、①ソーシャルメディアなどインターネット上に自らの行動予定等を開示しない、②信頼できる同僚・友人等に郵便物の回収、夜間照明の点灯を依頼する、③ホームセキュリティ（機械警備）を確実に作動させるといった防犯対策が必要である。

●元ラグビー南ア代表選手の強盗被害

29日、ラグビーワールドカップ（1995年）の優勝メンバーである元南ア代表選手ナカ・ドロツキ氏が、プレトリア郊外にある兄弟宅に居たところ、覆面をして侵入した武装強盗に拳銃で撃たれて重傷を負った。武装強盗が侵入したとき、同氏は兄弟や元チームメートと夕食を始めるところで、同氏が家族・友人を守るために強盗にタックルしたところ発砲された。抵抗を受けた強盗は逃走し、同氏は銃創による大量出血のため病院に搬送され治療中であるが、命に別状はないとされる。